

# チャレンジコミュニティ

Challenge Community Club

# 通信



第40号

2019.3 vol.40



明治学院記念館と桜



研修旅行「こころみ学園」



MINATOシティーフーフマラソン



サロン活動特集(社協入門講座)

## CONTENTS ■ ごあいさつ

芝地区総合支所協働推進課長  
高輪地区総合支所協働推進課長  
明治学院大学副学長  
明治学院大学総合企画室社会連携課長

金田 耕治郎  
鈴木 雅紀  
永野 茂洋  
岩本 千絵

- 2018年度CCクラブ活動
- 2018年度部会活動報告
- 2018年度地域CC年間活動報告
- 活動報告～サロン活動特集～
- 運営委員会報告・活動計画

## 地域活動への参加促進と東京2020大会を契機としたレガシーの創出を。

■芝地区総合支所協働推進課長

金田 耕治郎

私は現職にて、ボランティア活動に関して顕著な功績を上げた団体を表彰する「東京都共助社会づくりを進めるための社会貢献大賞」の審査委員を務めています。平成29年には、明治学院大学さんがチャレンジコミュニティ大学の運営や修了生への支援など、継続的な取組が認められて見事大賞を受賞され、CC通信で紹介された表彰でもあります。

審査の過程では、ボランティア活動の継続的な実施や支援を行っている企業、大学、町会などの数多くの事例に触れる機会があります。地域活動は新たな担い手の確保が難しくメンバーや活動が固定化してしまうケースも見受けられますが、子どもから高齢者まで多世代が活動に参加できる仕組みや、継続的に参加したいと思えるような多彩なメニューづくりなど、さまざまなアイデアを芝地区の事業でも参考とさせていただいております。

芝地区総合支所では、地域の人や組織をつなぐ人財を養成する「ご近所イノベーション学校」を開講し、チャレンジコミュニティ大学の修了生にもご参加いただいています。「自分の特技を生かし地域の人たちとつながりたい」といった思いを持った受講生の背中を後押ししアイデアをカタチにできるよう、上記のようなヒントとなる事例も参考としながら、講座のレベルアップや修了生のフォローなど活動の支援を行っています。

来年はいよいよ東京2020大会が開催されます。各総合支所でも、地域の方々とともに大会の気運醸成や、訪れる方が安心して楽しめる環境づくりなどが進められています。開催を契機とした新たな地域の繋がりや活動の広がりが、大会後もレガシーとして受け継がれていくよう、さまざまな活動主体と協働した取組を行ってまいりたいと思いますので、CCクラブの皆様におかれましても、お力添えをよろしくお願い致します。



## 新たな地域コミュニティの創造者として

■高輪地区総合支所協働推進課長

鈴木 雅紀

昨年は何かと「平成最後の・・・」と冠されることが多い年でした。新元号に対する世間の関心の高さか、あるいは「平成」という時代への名残惜しさ故なのかもしれません。

今年が平成31年。4月には新しい元号が発表され、5月から新時代が幕を開けます。平成の30年間は港区にとって大きな変化の時代でした。平成8年に15万人を割り込んだ人口は今や26万人に迫り、8年後には30万人に達すると推計しています。まさに賑わいが増す一方で、約9割の方が集合住宅にお住まいで、地域コミュニティの希薄化が課題となっています。

セキュリティが高いマンションが多く、オートロック、居住階でないとエレベーターが停まらない、内廊下で窓がなく各戸の様子が窺い知れないといったマンションも少なくありません。人々の考え方やライフスタイルも多様になり、昔ながらの地域コミュニティが築きにくくなっています。

チャレンジコミュニティ・クラブの皆さんは、この港区特有とも言える課題を行政では成し得ない手法で解決し得るのではないかと考えています。一例ではありますが、あるマンションでは居住者同士の交流が全くなかった所、CCクラブの方が発起人となり、マンション内で月1回のサロンを開始しました。今では参加者だけでなく運営の担い手も増え、週1回開かれ、良好なコミュニティを形成していると聞いています。

一口に「地域コミュニティ」と言っても様々な形があります。向こう三軒両隣といった昔ながらのコミュニティもあれば、その時代その土地にあったコミュニティの在り方も問われています。

新しい時代に、新しい形の地域コミュニティが生まれ、育っていく。「チャレンジコミュニティ」の名のとおり、皆さんが新たな地域コミュニティの創出に挑戦し、より豊かで住みやすいまちの実現に向けてご活躍いただくことを期待しています。



## CC大学第12期修了生に期待して

■明治学院大学副学長  
永野 茂洋

CC大学第12期生は、すでに一年間のすべての学びを終え、また2月の宿泊研修会も見事に乗り切り、そして、このCC通信40号がお手元に届くころには、修了式も無事すまして、晴れてCCクラブの新



メンバーになられているのではないかと思います。

12期の宿泊研修会は箱根湯本から湯河原に宿を移して行われました。3グループに分かれての討議と、まとめのプレゼンテーションというプログラムは例年と変わりません。しかし、毎年各グループの雰囲気は実にさまざまで、メンバーの組み合わせによってこれほど多種多様なアイデアが生まれるものかと、あらためて驚かされています。

今回のプレゼンテーションでは、港区に多い高層マンション内の高齢者が集えるサロン造りの事例が、あるグループから紹介されました。プライバシーを守るために隣とはできるだけ関わらないというコンセプトと、震災に備えた普段からのコミュニティ造りとの間のジレンマを、どうやって乗り越えていくかという、難しい課題です。その課題に取り組みされて、すでに少し住人の意識が変わり始めているということで、非常に強い印象を受けました。

CC大学での学びは、そのような難しい課題に挑む「チャレンジ精神」に連鎖が起こり、そしてそれに共感・共鳴した方たちの中で、さらに新しい課題の発見と取組がなされて行く、そのための言わばウォーミングアップの期間でもあります。12期生のみなさんは、すでにウォーミングアップをすませ、今は新旧どのような仲間と一緒に歩きはじめようかと頭を悩ませておられるかもしれません。

CCクラブが、第12期生のみなさんを迎えて、活動の幅をますます広げ、そうして、ご自身と港区での生活を一層熟成させて行かれますことを、あらためて期待いたしたいと思います。

## 60人×12年分の可能性

■明治学院大学総合企画室社会連携課長  
岩本 千絵

1254教室前の受付でCC大学12期生の皆さまをお迎えする日々も、あっという間に過ぎ去り、また桜の季節がやってきました。

2018年4月に社会連携課に配属され、12期生の方々とは“勝手に”同期だと自認している私は、この1年、数多くの講義と一緒に聴講させていただきました。受講生の皆さまの眼差しは真剣そのもので、お恥ずかしい話、ここまで熱心な学生に恵まれた大学の授業というのはなかなかないのではないかとさえ思うほどです。

毎回の講義後にいただく感想を拝見すると、誰もが同じ評価ということはありません。ある人が絶賛している講義も、別のある人は「何のために受けたのかわからない」と率直に書いていたりします。新保先生の講義を覚えているでしょうか。両手を組んだときに、左手の親指が上になる人と、右手の親指が上になる人がいること。そして、それを逆にただけでも感じる違和感…。同じクラスにいる、すぐ隣にいる人たちでもそれくらい「常識」が異なります。

でも、だからこそ面白いのだと思います。むしろ皆が皆、同じ方を向いているとしたら危険なことでしょう。背景の異なるいろいろな人が、時に協力し、時に妥協し、新たな一面に驚いてみたり、知らない扉を開けてみたり…受講生お一人おひとりの個性を掛け合わせてみると、そこには思いもよらない可能性が広がっているのではないかと思います。

12期生の皆さまと1254教室でお会いできなくなることは淋しいですが、新たにCCクラブメンバーとなった皆さまが、港区の各地域で活躍されるお姿を拝見することを心より楽しみにしています。



## 2018年度CCクラブ活動

### チャレンジコミュニティ・クラブ

### 2020応援フォーラム

### 講演会『視覚障害者の学びと夢』

講師：長野県松本盲学校校長 矢野口 仁

平成30年度 港区「東京2020応援プログラム」推進助成対象事業の承認をいただき、講演会が明虹会の運営で11月3日みなとパーク芝浦で開催されました。

矢野口先生から、視覚障害をもった子どもたちの実情を愛情一杯にお話いただきました。



矢野口仁校長

子どもたちは、同じ障害をもつ仲間との出会いで大きく成長していくそうです。視覚障害があっても適切な支援があれば通常と同じ道筋をたどって成長していきます。その方法として、手で触れることの大切さがあり、形や名前を覚えます。匂いや音の感覚を研ぎ澄まして感じ取ります。幼児は匂いで母親を探し当てるそうです。

盲学校は、早期支援教室から高等部までの子どもたちと中途視覚障害の人たちが在学し、歩行指導から外出先の点字ブロックのこと、技術習得など多岐にわたる学習をし、卒業後は社会に出て貢献したいとの意欲をもち、資格を取得し自立への道を邁進しています。全盲の弁護士がおられますし、各分野で活躍されています。

全国の盲学校では点字競技大会、珠算大会、弁論大会を開催しているほか、ブラインドサッカー



参加者は講演で様々なことを学びました

やグランドソフトボールなどスポーツへの挑戦も活発で夢や進路にチャレンジしています。

当日は、矢野口先生が持参された眼鏡型の模擬器具をかけてその視野感覚を体験することができました。

視覚障害をもつ人たちには優しく声をかけて安心してもらい、了解を得てから、手を取り同行するとか、横断歩道を一緒に渡ってみてはいかがでしょうか。私は、機会があったら遠慮せずに声をかけてみようと思いました。（佐藤・記）

### 2018年度バス研修旅行

### 足利市「こころみ学園」

### ココ・ファーム・ワイナリー、栗田美術館

11月6日（火）CCクラブ初の「日帰りバス研修旅行」に、明治学院大学名誉教授河合克義先生とご一緒に32名が参加しました。

あいにくの雨でしたが、足利市「こころみ学園」ココ・ファーム・ワイナリー、栗田美術館へ向けて出発しました。車内で河合先生の社会福祉のお話や、区より防災についての研修もありました。

足利市「こころみ学園」は、1950年代に中学校の特殊学級教員の川田先生と特殊学級の子どもたちが中心になり、2年がかりで勾配38度の急斜面を開墾した葡萄畑がワインづくりの原点です。

現在、「こころみ学園」には約130名の利用者がいます。そのうち97歳を筆頭に、平均年齢57歳の人たちが働いています。急斜面を、原木を運び、草取りや、石拾い、カラス追いなど全ての作業を自らの力でやり遂げ、1年中頑張ってきた人たちがいることを誇りにし、また、このワインには、頑張ってきた仲間たちが安心して年をとっていただけますように、という願いも込められています。

一人ひとりが、自分でできることを見つけ、できる範囲でやっていく、それにより家族のように生活している姿がありました。

ランチでは、沖縄・洞爺湖サミット、JALと

ANAのファーストクラスで使用されているワインを味わいながら、美味しくいただきました。

午後からは、伊萬里、鍋島を館蔵する栗田美術館見学でした。緑豊かな広大な敷地の中の美術館は、世界最大級の陶磁美術館で、肥前鍋島藩で生産されたものが展示されています。

見学後、道の駅「どまんか田沼」に寄り、農産物などの買い物をして帰路につきました。



期を越えた楽しい研修旅行でした

今回のバス研修は、いろいろな場所で多くを感じ取り、期の枠を超え、交流を深める研修になりました。また、参加した方たちからも、次回の企画への期待も多くありました。(中満・記)

## MINATOシティハーフマラソン 2018 ボランティア体験記

MINATOシティハーフマラソン2018が港区で初めて実施されました。CCクラブからは8名がボランティアで参加して大会に協力しました。

事前説明会には沿道の町会の皆さんとともに参加して、役割となるコース管理担当の説明を受けました。担当ごとに説明会を開いていると聞き、大会を成功させたい思いが伝わってきました。

私たちには住居近くのコースが割り当てられ、道路事情を良く知った場所担当となりました。

大会当日は、PR不足のためもあって近隣の方の応援が少なく感じました。観客を見るよりランナーを見ていることのほうが多かったのも、知り合いのランナーの方から声をかけてもらいました。こちらが応援されているような気分でした。ランナーとボランティアとの交流ができるのが港区のマラソン大会の良いところだと思います。

大会の様子はJ:COMで実況中継され、大会を盛り上げました。(古橋・記)

## 2018年度社会福祉協議会

### 社会福祉功労賞の紹介

2018年10月20日開催の港区社会福祉協議会主催第3回港区地域福祉フォーラム第2回表彰式にて地域福祉貢献賞と地域福祉功労賞にCCクラブ会員が表彰されました。表彰者を紹介いたします。

#### ○地域福祉貢献賞

##### S o L i の会

対象者と活動内容については今号のp10. 11の活動紹介のページで紹介しております。

#### ○地域福祉功労賞

##### 石綿 修一(5期・介護相談員)

ご本人からコメントを頂きました。

「両親の介護経験が活かせると思い介護相談員を始め、はや10年近く経ちました。相談員は地域高齢者の生活の場(施設)を訪問し、市民目線で利用者の声やQOL向上の一助にして欲しい意見等を施設に伝えています」

##### 加藤 彌生(6期)

受賞対象は永年にわたる傾聴活動をはじめとしたボランティア活動です。活動内容についてはクローズアップCCNo.41に詳細が紹介されております。

##### 川上 利春(6期)

ご本人からコメントを頂きました。

「車イスと白杖を必要とする人たちへのサポート方法を理解するためのふれあい講習会の講師として企業や学校に出向いています。生徒たちは具体的な体験に戸惑いながらも相手の気持ちに寄り添う体験ができたと目を輝かせてくれます。そんな小さな出来事に感謝のご褒美をいただき、こちらこそ感謝!感謝です」

##### 小林 和子(8期)

小林様の活動内容については今号のp10. 11の活動紹介のページで紹介しております。

##### 古川 久江(8期)

古川様の活動内容については今号のp10. 11の活動紹介のページで紹介しております。

# 2018年度部会活動報告

## 企画部会

### 「日帰り研修親睦バス旅行」、「柴又七福神巡り」

企画部会は、例会（毎月午前中・昼食会）を役員会前に開催し、運営委員会の場で皆様からのご意見を反映して活動を実行致しました。部会運営に際しては、CCクラブの会員が楽しく集うことで、お互いの絆を深め、情報交換し、会員一人ひとりの毎日の生活や活動をさらに充実できる機会を提供することに努めました。

2018年度の活動計画としては、①ホームカミングデイ②活動報告会③研修旅行④街歩き⑤港区、区関連団体との連携・協働活動等でした。

ホームカミングデイの講演会では、日本フィランソロピー研究所所長渡邊一雄氏をお迎えして「やっと見つけた！手ごたえのある生き方～ボランティアとフィランソロピー～」をテーマにユーモア溢れる講演会を開催し、今後の活動の参考になると好評でした。

研修旅行としては、CCクラブとして初めての企画「日帰りバス研修旅行（社福法人足利こ



葡萄棚下でのワインの試飲

ころみ学園、栗田美術館他)」を11月6日（火）に実施致しました。小雨ぱらつき始める頃に明治学院大学を出発し、「こころみ学園」では本降りになる天候の中実施されました。車中では、名誉教授河合克義先生の講話、防災に関する研修を行いました。雨がかすむも、紅葉で色づく山々の景色を楽しみ、会話も弾み、ワイナリーでの美味しい昼食、美術館訪問も好評でした。

1月22日（火）「柴又七福神と寅さんの地元を巡る」街歩きを実施しました。概ね6km、3時



柴又帝釈天前で記念撮影

間のウォーキング、山本亭での休憩、寅さんゆかりのお店で草団子を賞味、ゆったりと街歩きを楽しみました。

連携・協働活動としては、みなと区民まつり、サイエンス講座実施に対しての運営支援を行いました。（8期 野村 知義）

## 地域連携部会

2018年度地域連携部会は、部員13名でスタート、4月から【2018年度活動実態調査】を実施、1～11期592名を対象にして、回収数336、回収率は56.8%でした。当初より河合克義明治学院大学名誉教授のご協力、ご指導を頂き、集計・分析を経て報告書（速報版）を作成、2019年3月の活動報告会で結果発表をしました。今後のCCクラブの方向性としては「学びの機会を増やす」が40.1%、「地域貢献・地域福祉活動に注力」が38.2%の結果でした。他には地域活動情報と活動を希望する会員とを結ぶ仕組みづくりなどの提案もありました。4地区CCクラブが集まり情報交換等を目的とした【地区CC会議】は2018年7月、10月、2019年1月、3月の4回開催しました。各地区総合支所協働推進課長、係長、河合克義名誉教授、岩本千絵社会連携課長、社会福祉協議会加藤三奈社会福祉係長、の方々にご出席頂き、CCクラブ役員、各地区CCクラブからは代表ほか数名のメンバーが参加して開催しました。各地区CCクラブの活動報告、情報交換などを行い、この場でしか実現できない意見交換の場として貴重な会議



クローズアップCC40号

となっています。地域で活動する個人、グループを取り上げ紹介する【クローズアップCC】は、芝CCクラブの「パーキンソン病友の会支援活動」等3団体、1個人を取り上げHPに掲載し、広く皆様に紹介しました。これからも地域との連携を強め、情報の共有化を図り、地域貢献活動に繋げて行くことを目指します。

(2期 吉田 由紀子)

## ホームページ部会



HP部会は如何にしたら会員の皆さんに閲覧し、投稿して頂けるかをテーマに活動しました。投稿件数にしてもまだまだ部会や地区CCクラブ、期、グループに大きな差があります。投稿が増えれば閲覧も増えると考えていますので、ぜひ会員の皆様の投稿をお願いいたします。HP部員もお手伝いいたします。

18年度の主な活動は月1回の定例会での

- ① 新任の運営委員や部会員その他希望者への投稿方法の説明会の実施
- ② 現在の投稿マニュアルで改善すべき個所の修正・追加作業
- ③ HP部会員に対する投稿訓練や部会員相互の技能習得
- ④ 会員からの活動予定や実績及び関連情報の投稿依頼の対応等でした。(9期 石賀 幹春)

## 会報部会

CCクラブの会員皆様の繋ぎの橋となる会報作りを心がけてきた一年でした。ぎりぎりになりましたが会報3回の発行ができました。これもひとえに部会員10名が協力しあって、総会、ホームカミングデイ、明治学院高等学校家庭科授業参加、みなと区民まつり、サイエンス講座、港区地域福祉フォーラムの取材を行い、さらに2020事業講演会、日帰りバス研修旅行、MINATOシティハーフマラソンボランティアへの参加取材を行っ

てきた賜物です。

ホームカミングデイの渡邊一雄氏(日本フィラノスロピー研究所所長)講演内容も興味深いものであり、ホームページに掲載させて戴きました。会報内容はどうしても総会、活動報告会を主としたものとなりがちですが、今後は皆さまに今以上に興味をもって頂けるような題材を取り上げたいと思っていますので、皆様からのご提案をお待ちしております。

来年度も年3回の発行を計画しますので、皆様ご協力をお願いいたします。



CC通信39号

(10期 瀬能 正実)

## 総務部会

議事録・イベント情報などをタイムリーに発信しています。月2回程度集まり部員仲間の楽しい語らいのなか進めています。

主な活動実績は以下のとおりです。

- ① 運営委員会業務：発表資料の取りまとめ、議事録の作成、会場の名札管理・受付
- ② 総会業務：総会資料の取りまとめ(2017年度活動実績、2018年度活動計画、CCクラブ規約改定案、役員選任案)、総会議事録の作成、懇親会の準備と会計
- ③ 議事録・イベント情報などの一斉通信(郵送を含む)
- ④ 一斉通信用メールアドレスの収集と管理
- ⑤ 各種イベント支援

(CCクラブ運営資金の募金、CCクラブTシャツの販売)

※2017年度に作成したTシャツを大勢の方々がイベント



(前)

(後)

で着用して下さり好評です。まだお持ちでない方は、ぜひお求めください。(8期 石川 啓子)

# 2018年度地域CC年間活動報告

## 芝CCクラブ

芝CCクラブは、芝地区在住者の有志が2011年からボランティア活動をしているクラブです。

2018年度の主な活動は、①地域環境整備としてのアドプト活動（本芝公園・三田いきいきプラザ・勤労福祉会館）です。アドプト活動とは、花壇の世話をすること、年2回の花の入れ替えと定期的な水やり・雑草取り・追肥などです。



本芝公園アドプト活動

②難病支援活動としての港地域パーキンソン病友の会への支援です。定例会が毎月1回開催されますので、会場の設定と後片付け・ヒューマンぷらざまつりで展示のお手伝いをしています。

③地域交流として、芝・みたまち倶楽部を年6回開催しています。内容は、三田いきいきプラザと協働して、折り紙などの講座を行っています。

④地域コミュニティ活動として、ふれあいまつり芝・社会福祉協議会フェスタ・ラクっちゃフェスタ・三田いきいきプラザまつりにも芝CCクラブとしての活動内容を展示しています。

⑤最近では、健康支援としてアロマハンドマッサージのボランティア活動を始めました。

⑥会員交流としては、年1回の総会、毎月の定例会をはじめ新年会、忘年会、新入会員歓迎会などを行っています。

新井隆治代表を中心に、自発的に参加する30余人が和気あいあいと楽しく活動しています。



毎月の定例会議

(8期 高田 英夫)

## 3Aクラブ（赤坂・青山・麻布地域CC）

### 地域への支援・地域からの支援

チャレンジコミュニティ・クラブ赤坂・青山・麻布地区クラブ（以下3Aクラブという）の活動は、自主活動と地域交流の中で生まれた共催・支援活動があります。

共催活動では、前年に引き続き、区立麻布保育園での人形劇上演を、大学の人形劇団と共催しました。子どもたちの感動は、そのまま私たちの感動でもあります。また、近隣自治会主催の秋まつりで子どもたちを対象としたコマ回し・メンコ遊びなどの昔遊びコーナーを運営しました。若いお父さんお母さんが子どもたちと一緒に夢中で遊んでいました。みんな昔はヒーローだったのですね。

今年度から、麻布地区総合支所企画・地域住民主催のミナヨク事業「おつかい大作戦」の支援活動を行いました。就学前の子どもたちに一人で買



い物経験をしてもらう企画です。初めての一人での買い物はドキドキ感もありますが、新鮮なようです。戻ってきたときの顔は達成感を物語っています。マルシェ運営企業とお店の協力なくしてはできない事業でもあります。

自主活動としてのサロン麻布は、地域の方々も参加してくださり大盛況です。同時開催のミニ講演会は講師の方々のご協力に支えられています。

3Aクラブのすべての活動は、会員の活発な行動だけでなく多くの方々のご支援に支えられています。今年度は特に麻布地区総合支所のご協力により、活動案内の配布が大幅に拡充され、多くの方々に3Aクラブの活動を知っていただけるようになりました。感謝です。

(9期 川村 潔)

## 明虹会 (港南・芝浦・台場地域CCクラブ)

5月に月例会と11期生歓迎会を開催し、今までなかった会則を導入し、8名の幹事役も決定しました。

7月に11期生企画による自然教育園散策と懇談会がNEC倶楽部で行われました。

7月と8月に芝浦アイランド児童高齢者交流プラザの夏祭り「涼をとろう」に参加し、会員がかき氷やフルーツ菓子を作り子どもたちや親御さんに振る舞いました。今年は打ち水がなかったのですが子どもたちは大喜びでした。

11月に松本盲学校校長先生による一般向けの講演会を開催しました。明虹会として独自に企画し、港区「東京2020応援プログラム」助成団体にCCクラブが登録承認を受けた事業の一つです。詳細は別の記事で掲載します。

12月は水辺のまち魅力アップ分科会講座に多くの会員が参加し、鉄墨団子による運河の水質改善について学びました。講義のあと、参加者全員が芝浦アイランドまで運河沿いに散策、実際に鉄墨団子が設置されている現場でヘドロ浄化作用を確認しました。参加した子どもたちは運河について多くを学んだようです。

12月豊洲市場見学会に寒い雨の中9名が参加。市場は平日にもかかわらず大変な混雑。場内は広く、水産棟見学だけでも結構歩きました。その後、バスと徒歩で「マグロ丼の店」のある豊海町まで向かい、ランチを楽しみました。



開場した豊洲市場を早速見学  
(6期 斎藤 正精)

## 高輪地区CCクラブ (三田4、5丁目、高輪、白金、白金台)

### 白金台にコミュニティ・カフェをオープン!

高輪地区CCクラブは発足して6年目になりました。今年もコミュニティ・カフェ高輪(毎月第2・4金曜日)とHUG高輪(毎月第3火曜日)での活動を中心にスタートしました。

高輪コミュニティぷらご2階展示ギャラリー前のカフェでは地域の方の参加が増え、HUG高輪のミニ講演会では新しい分野のテーマも増え、来場される方の層が広がりました。

そのようななか、期初から10期、11期の会員を中心に白金台ゆかしの杜でのカフェの提案があり、協働先(高輪地区総合支所協働推進課)と検討し、CCクラブ会員以外も含んだ活動として、10月から月1回の頻度での開催となりました。多くの方にお集まりいただきオープンしましたが、地域の情報交換の場所として、高齢者が気軽に訪問できるカフェとして運営したいと思います。



ゆかしの杜・カフェのオープン

CCクラブ会員を主な対象としている例年開催の総会や納涼会には今年も多くの方が集まりました。来年度も気軽に集まれる地域CCクラブを目指したいと思います。



8月の納涼会で全員集合  
(7期 太田 則義)

## 活動報告～サロン活動特集～

地域の皆さんを繋げる「サロン活動」を特集しました。社会福祉協議会の支援も得て多くの会員が様々なサロン活動をしています。新しく始めたいという方も参考にして下さい。

### みんなでつながるサロン活動 港区社会福祉協議会 地域福祉係

港区社会福祉協議会（以下、港社協）では、身近な地域の課題に対して、住民自身が関係機関等とも連携しながら解決しようとする「小地域福祉活動」の取り組みを推進しています。その取り組みの一つが、地域でのサロン活動です。

昨今、超高齢社会や核家族化、単身世帯の増加や無縁社会、孤立死などの問題が取り上げられています。公的な福祉サービスや支援には限界があり、すべてに対応することは難しい状況です。その中で、地域や人のつながりを大切にした居場所づくりの重要性が高まっており、そのような活動は大規模自然災害などの現場の復興においても大きな役割を果たしています。

サロン活動は、定期的集まれる場を作り、地域のゆるやかなつながりづくりを進めていくものです。閉じこもりがちになるのを防いだり、参加者の気になる変化に気付いて関係機関につないだり、とすでに地域の中でも多くの効果がでています。



入門講座で理解を深めて、いざサロン活動へ！  
港社協では、活動を始めにあたって必要な情報の提供や立ち上げ支援、活動費用の助成や傷害保険への加入、入門講座や活動者向けスキルアップ研修の実施などのほか、ホームページや広報紙、職員の訪問などによる普及啓発も行っています。

平成31年1月現在、49か所のサロンが登録しており、今後もこの活動が広がるよう取り組んでいきます。「もっとサロンについて知りたい」「自分の地域でも取り組んでみたい」という方は、ぜひ港社協にご相談ください。

### 「サロンはなみずき」活動 8期 小林 和子

平成25年1月1日付けで民生委員・児童委員の委嘱を受けた年、サロン活動とCC大学を知り、翌年CCクラブに入り、4月、5月にサロン活動の前身として高齢者対象に開いてみました。

そして、地域に住む高齢者の方及び障がい者の方が顔見知りになり、挨拶を交わし、孤立せず気軽に集う場を作りたいとの思いで、平成27年4月より、毎月1回芝一丁目のヒューマンぷらざ7階にて「サロンはなみずき」を開催し、今に至っています。

サロン活動は社協の地域福祉活動の一つで、協力員は地域の方、民生委員そして芝地区高齢者相談センター・ふれあい相談員の方々です。毎回、おしゃべりの時間と共に何か楽しく学べる事など、工夫しています。4年目になると、社協からの助成金が少なくなったので、町会の老人クラブから助成をしていただき、皆様のお力添えを得て続けております。



毎回工夫を凝らした行事を行っています

## 「サロン茜」活動

8期 古川 久江

麻布区民センターで行っていた折り紙教室終了時、民生委員でCCクラブ7期の小田切恵子さんから折り紙活動継続の勧めがありました。CCクラブで「学んだ証として実行する」を思い出し、折り紙を楽しみにしている人がいるので社会福祉協議会やふれあい相談員の協力を得ながらコミュニティの情報交換やおしゃべりをしながら一緒に折り紙を楽しもうと思い2015年12月に発足しました。

毎月第一金曜日の午前10時～12時に麻布協働スペースで折り紙が好きな人が集まってサロンを開いています。参加費は200円です。このサロンでは歳時記を大切にし、日本の四季、文化を感じ、美しい和紙に触れ、日常の生活を心豊かに楽しんでいただけるように軽いストレッチをまじえておしゃべりをしながら頭脳と指先を使って折っています。

これからサロンを開こうと思っている方は、ご自分の出来ることを無理ない範囲で行うことが大切と思います。



2月8日のサロンの作品です

## 「なぎさサロン」活動

12期 平田 渥美

2015年に港区介護予防リーダー養成講座を修了したメンバー7名で、芝浦港南地区に高齢者を対象にしたサロンがないことから、同年11月に「なぎさサロン」を立ち上げました。

サロンの目的は高齢者の孤立を防ぎ、健康寿命を延ばすために外に出る習慣をつけてもらうことが主です。

毎月第2木曜日の午後2時から1時間半、会費200円でパーク芝浦内の区民協働スペースなどで開催、これまで43回実施しました。回ごとの流れは身体を動かすこと（現在は太極拳の練功十八法前段）、簡単な講座、連絡事項や情報交換、おしゃべり、歌唱などを実施しています。

また、なぎさサロンから派生したサロンもありそれぞれ目的に合わせて活動しています。

開設当初は運営スタッフにCC大学修了者はいなかったのですが、現在はスタッフ5名中、2名が修了者で2名が12期生です。



なぎさサロンの団欒光景

## S o L i の会

6期 香西 慧

S o L i の会の名は、ソリスト（独奏者）のS o L i からとっています。つまり一人暮らしの人の交流会です。

マンションの住民たち（60歳以上）が毎月1回、共有スペースに集まって食事会を始めて、もう12年目になります。参加費なし、各自が1品（手料理や飲み物、フルーツなど）を持ち寄ります。「みんなの手料理が楽しみ!」「料理の腕が上がった」「大勢で食べるとよりおいしい」「ここでは大声で笑える」など、わいわい言いながら、楽しい時間を共有しています。

毎回、同世代ならではの話題で盛り上がりますが、時には、ふれあい相談員の方や民生委員にも参加いただき、お話を伺うこともあります。

長い間には、家族の不幸があったり、自身の体調を崩したり、いろいろ状況も変わりますが、「遠くの身内より近くの他人」というとおり、互いに声掛けをして、助け合っています。



必要な情報を得る場でもあります

## ■運営委員会報告

### 運営委員会報告

今年も新年度の活動計画作成を意識して「CCクラブの活動の方向性」をテーマにグループ討議（ブレインストーミング型、集団でアイデアを出し合う）を2回行いました。通常の運営委員会と違い発言が偏ったり一方通行にならないよう4テーブルに分かれ、参加者全員が発言するルールで行い、進行役は役員が務めました。2回目はテーマを「①会員と地域活動を繋げる仕組みづくり ②地域活動を継続するための工夫 ③会員の経験・スキルを活かすには ④クラブ活動をより楽しくする工夫」に絞り結果的に①と③の二つを来期の活動計画に反映することになりました。挙げられたテーマはいずれも多くの方に認識されている課題であると思います。②と④も相互に深く関連したテーマで、各人が活動することに生きがいや楽しさを感じられないと継続が難しいですね。成功事例からは、無理なく自然体で臨める活動にする創意工夫があること、中心となるリーダーとスタッフが数名いることが読み取れます。（代表 斎藤正精）

### ■活動計画

#### 2019年度CCクラブ 第4回定期総会 ホームカミングデイ 交流会（予定）

2019年6月22日（土）13：30からを予定

場所は明治学院大学白金キャンパス内

○CCクラブ第4回定期総会

○ホームカミングデイ

○交流会

詳細は同封されています案内状及び運営委員会報告、ホームページでご確認下さい。

#### 編集後記

今回の40号では、秋に行った行事の2020応援フォーラム 講演会「視覚障害者の学びと夢」とバス研修旅行足利市「こころみ学園」ココ・ファーム・ワイナリー、栗田美術館。そしてMINATOシティハーフマラソン2018ボランティア体験記と今年度最終号として各部会と各地区CCクラブの活動を掲載しました。また、毎年紹介している活動報告では「サロン活動」をテーマに社会福祉協議会からの紹介と4つの会員の活動を掲載しました。訪問したサロンでは運営している会員がそれぞれに目的を持ち活動に工夫を凝らし区民の皆さんと繋がりを大切にしている姿を見ることが出来ました。会員の活動は今年度の行った「2018年度活動実態調査」でも詳細が分かりましたが、具体的な活動はホームページの投稿や「クローズアップ」でも知ることができます。皆さんの活動の参考にしてみてください。

（7期 太田 則義）



チャレンジコミュニティ通信 vol.40 2019年3月31日発行

発行者 チャレンジコミュニティ・クラブ

事務局 明治学院大学 総合企画室社会連携課

(株式会社明治学院サービス)

〒108-0071 東京都港区白金台1-2-37

Tel.03-5421-1555 Fax.03-5421-1556

Email ccclub@meijigakuin-s.co.jp

http://www.minato-ccc.jp

表紙写真協力/平尾恭一様(9期)

会報部会	
部 会長	瀬能 正実(10期)
副 会長	太田 則義(7期)
部 員	古橋 義弘(1期)
部 員	忍足 恵一(6期)
部 員	榎本 和夫(7期)
部 員	山田 紀子(8期)
部 員	今井 美智(10期)
部 員	佐藤 芳男(11期)
部 員	鈴木 興雄(11期)
部 員	中満 美紀(11期)